

# DEOS標準 体系

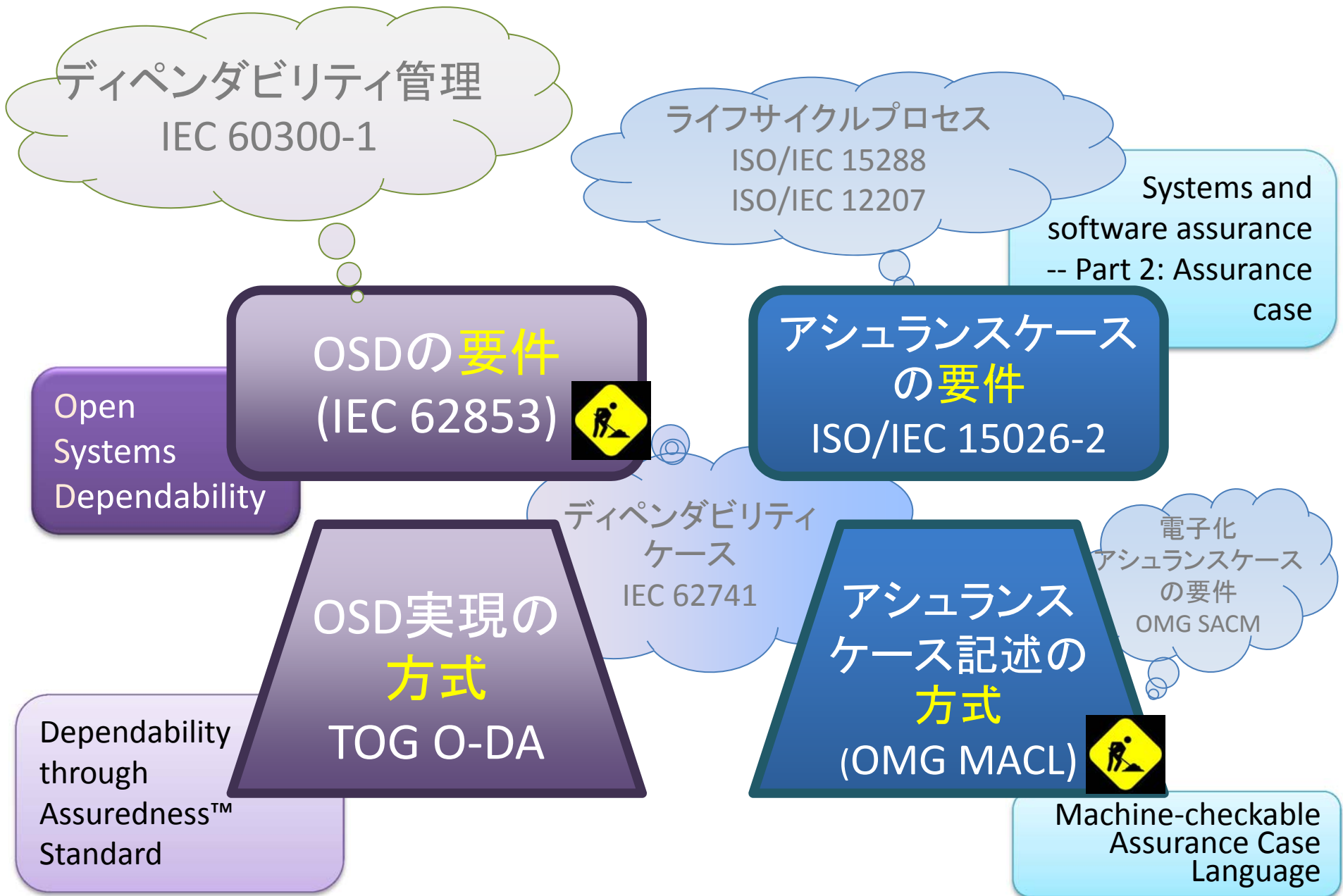
2014-06-25

第1回DEOS協会オープンシンポジウム

木下佳樹、武山誠

神奈川大学理学部情報科学科

# DEOS標準 体系





# IEC 62853 Open Systems Dependability

- **制定審議中 (2015-12発行予定)**

審議委員会： IEC TC56 Dependability WG4  
PT4.8 Open Systems Dependability

[国内委員会： IEC/TC56信頼性専門委員会  
(事務局：日本規格協会)]

- マネジメントに関する規格の一つ。  
ディペンダビリティ管理のIEC標準を前提とする。

IEC 60300-1 Dependability management

IEC 62741 Dependability case

- 想定される利用：

– OSDの認証 cf. ISO 9000シリーズ(品質管理), ISO 14000シリーズ(環境管理), IEC 61508/ISO2626他(機能安全)

– 合意形成のツール

– Sector specific な規格群策定の際の枠組みとして。



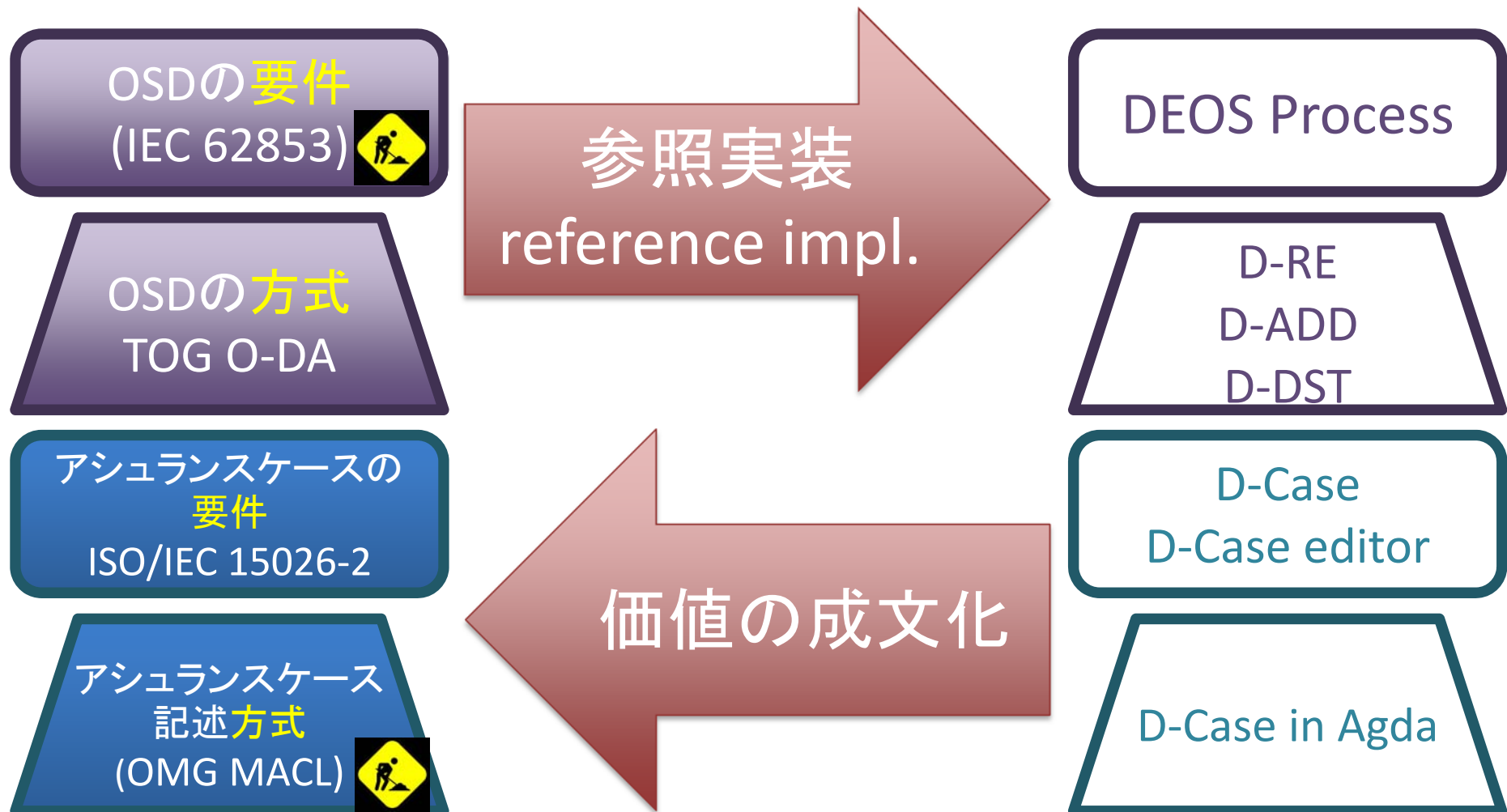
# 標準化活動の場

- IEC TC56 Dependability  
Dependability特性に関する事項全般をカバー  
( {管理、評価} の {手法、技術} )  
対象分野は 機械でもプラントでもプロジェクトでも何でも。  
ソフトウェアはその小さな一部。
- ISO/IEC JTC1 SC7 Software and systems engineering  
ソフトウェアのエンジニアリングに関する事項全般をカバー  
( プロセス、技術、ツール )  
Dependabilityは懸念の小さな一部
- The Open Group (TOG)  
Real-time & Embedded System Forum (RTES)
- Object Management Group (OMG)  
System Assurance Task Force (SysA)

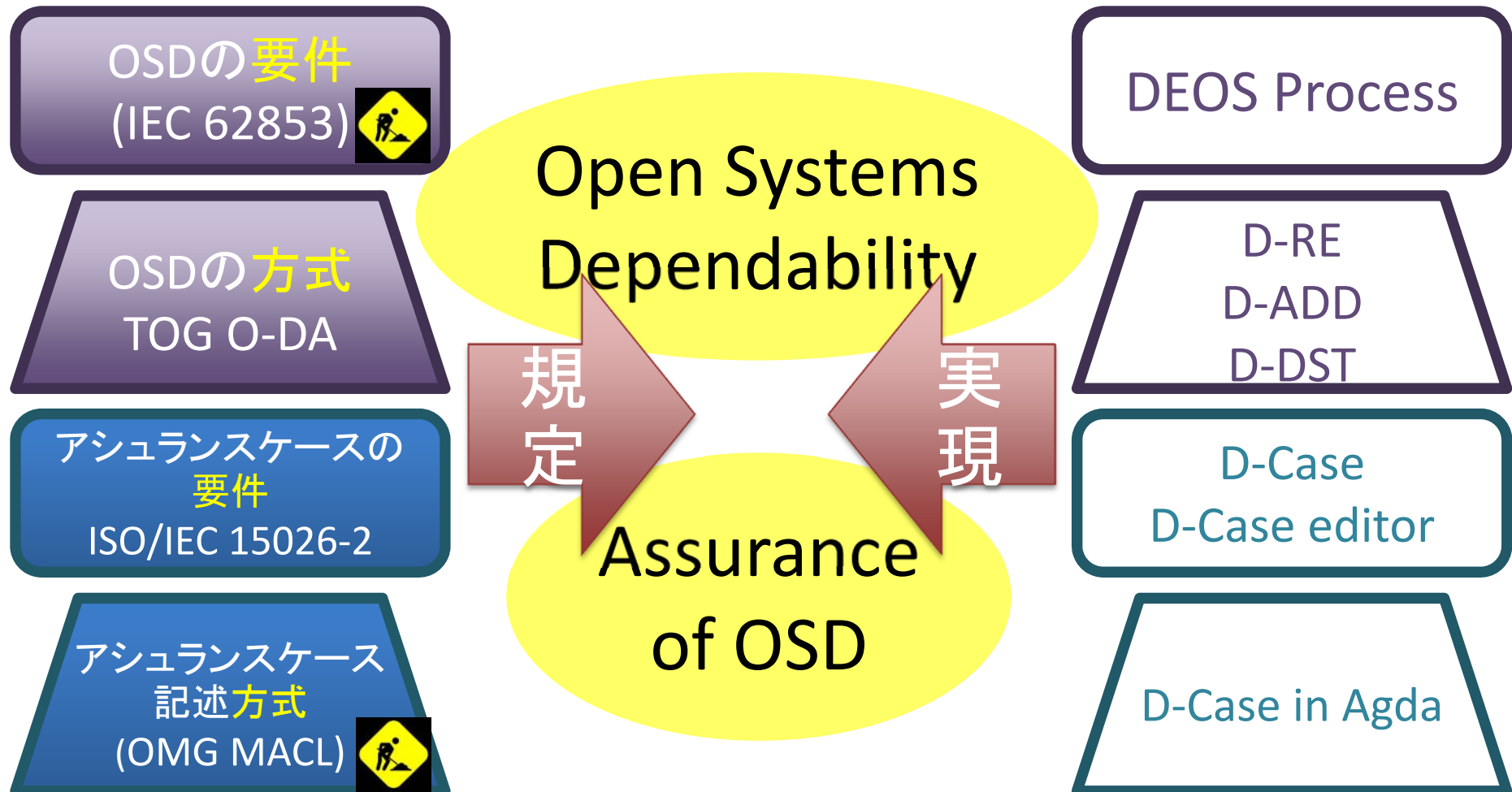
De jure  
規格

Forum  
標準

# DEOS標準 vs DEOS技術



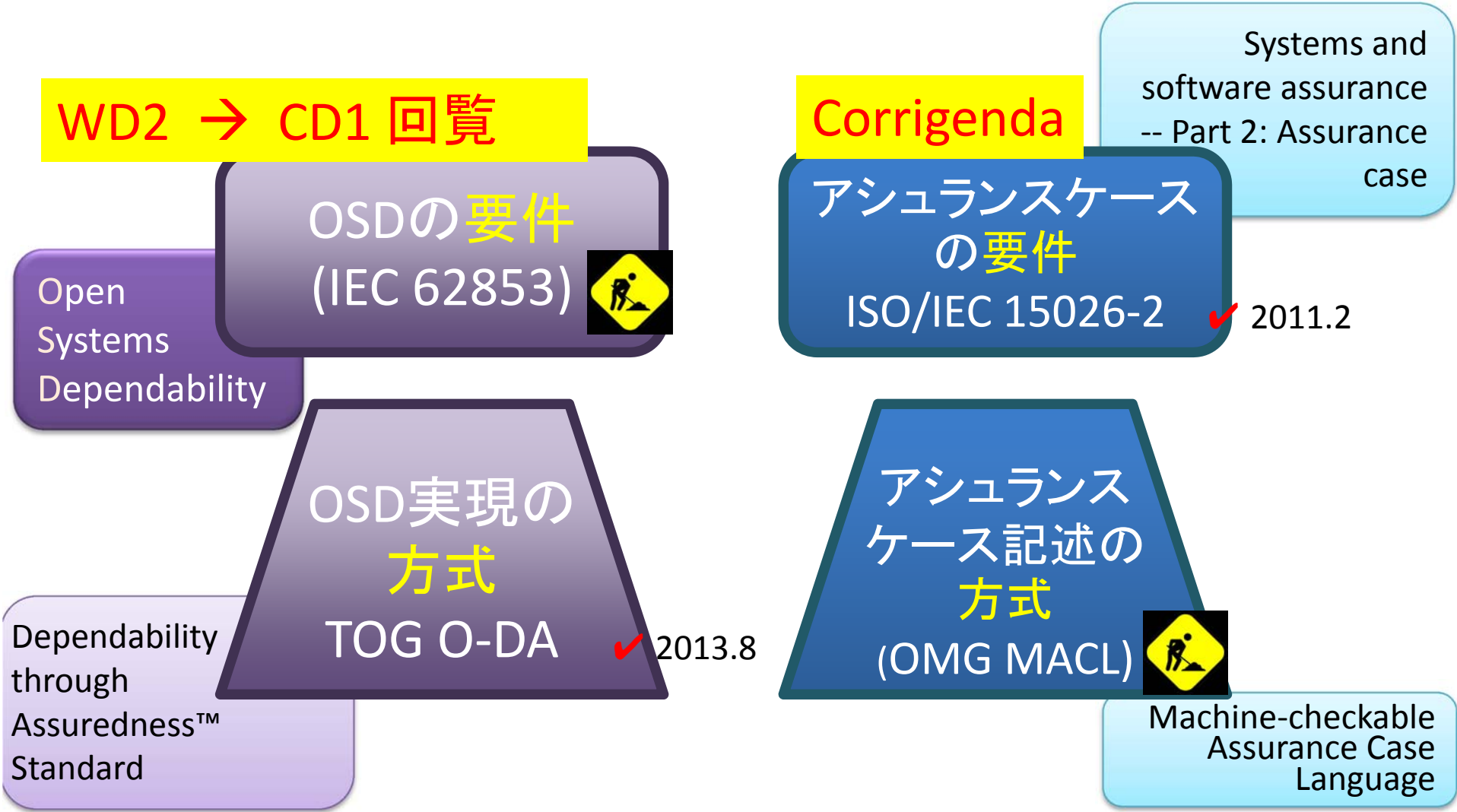
# DEOS標準 vs DEOS技術



# 標準化活動の位置づけ

- 対象システムのディペンダビリティ達成だけに絞ってもダメ  
(オープン性)
  - 関連するシステムすべて の考慮、~からの助けが必要
  - 周辺の組織や個人 の考慮、~への信頼が必要
- 皆がうまく行くためには、基準の共有、目的意識が必要
  - 何をどこまで、どんなコストで対策するのか、の基準
  - 論理的、科学的に導かれる「正解」はなし。
  - 基準は、社会通念による → 曖昧で暗黙的
- ディペンダビリティ達成のためには、明確な基準が必要
  - 標準化
- 標準化は、  
社会全体でディペンダビリティを達成する  
ための 手段 = 基本技術

# 最新情勢





# IEC 62853/Ed.1 WD2の概要

- システムライフサイクルが所定の要件を満たし、かつそのことのアシュランスが所定の要件を満たす、ことを要求
- ライフサイクルは、4つの「プロセスビュー」を実現すること。
  - 合意形成、変化対応、説明責任遂行、障害対応  
PURPOSE, OUTCOMES, implementing activitiesを規定
  - 実現に至る全活動を論じた dependability case で「実現されている」と主張
- ライフサイクルの dependability case は、それを対象とする5つの「assurance metacase」をもつこと。  
→

# IEC 62853/Ed.1 WD2の概要

## 五つの assurance metacase

- Intra-system consistency  
システム内の一貫性
- Inter-system consistency  
関連システムとの間の一貫性
- Validity  
現実を正しく表していること
- Adequacy  
現実について、  
適切な範囲の有意な性質を十分に深く論じていること
- Confidence  
関係者がシステムとそのディペンダビリティを十分に確信していること

# お知らせ

## 第1回DEOS標準化部会講演会

(兼 第1回システムアシュランス研究会)

- 7月18日(金) 15:30~(予定)
- KUポートスクエア みなとみらいクイーンズタワーA14階
- 講演
  - 「DEOS標準化への期待」 所真理雄
  - 「アシュランスケース記述事例報告」 森口草介
  - 「DEOS標準化動向」 木下佳樹
- 懇親会を予定しております。
- 参加申し込み方法等、詳細は追ってDEOS協会ホームページ等を通じてお知らせいたします。